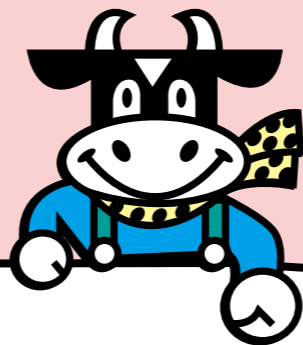


ワンポイント・アドバイス



寒冷期の子牛の管理

11月に入り寒さが厳しくなってきました。それとともに、子牛の疾病に関する往診が増えてきているように感じます。私たち人間も冬になると防寒対策をしている様に牛の飼養管理においても防寒対策が必要になってきます。今回のワンポイントアドバイスでは子牛の寒冷対策について取り上げたいと思います。

子牛の寒冷対策には重要な点が大きく分けて3つあります。

1. 保温
2. 清潔
3. 換気

子牛は親牛に比べ、皮下脂肪や被毛が少なく体温維持が難しいため気を付けなければいけません。また、寒さをしのいでも子牛周囲の換気が不十分な場合は病気になるやすいためその点についても注意が必要です。そして牛床が汚れていて

も細菌が増殖し疾病の原因になってしまっています。

保温

さまざまなグッズがありますので紹介します。

①湯たんぼ

子牛と一緒にハッチに入れることでハッチ内の温度も上がり、また直接子牛の体温も上げてくれます。



▲湯たんぼ

②ジャケット、マフラー

子牛に直接巻くことで子牛の体温維持、皮膚病予防そして外敵（カラスなど）から身を守ることに役立ちます。た

だ、着脱を頻繁に繰り返すと体温調節が難しく逆効果になってしまいます。



▲ジャケットマフラー

③赤外線ヒーター

ハッチ内や枠の上部に吊り下げることによって、子牛を温めてくれます。



▲赤外線ヒーター

④隙間風の防止

保温グッズではないですが風の流

があると体感温度が下がるため、隙間風を防ぐことはとても重要です。ハッチ内、枠内に入って隙間風の有無を確認してみてください。

ハッチをシートや毛布等で覆うことだけでも隙間風は簡単に防ぐことができます。

⑤その他

子牛やハッチを日光に当てることでも保温することができます。また敷料を豊富にすれば保温効果が期待できます。

清潔

牛体に糞や尿などが付いた状態では、下痢肺炎のみならず臍帯炎などの病気になるおそれが高まります。また、牛体や敷料が湿っていると子



▲豊富で清潔な敷き藁

牛は、体温を奪われ寒さを感じます。例えば、敷料の下にすのこを引くことで糞尿が敷料に溜まることを防ぎ清潔に保つことができるでしょう。また、敷料を多くすることで、保温効果も高まります。

牛体および敷料の汚れを観察し、汚れた敷料は、早めに交換するようにしましょう。

換気

寒さ対策で牛舎をしめきったままにしていると、湿気や臭気（アンモニア）がこもり、ほこりや細菌が増加します。臭気（アンモニア）は、子牛の呼吸器にダメージを与え、細菌等が感染しやすくなってしまうます。そのため、子牛になるべく直接風が当たらない



▲換気

